

## はじめに

江戸時代は鎖国政策を取っていたこともあり、欧米列強と比べ、科学技術はずいぶん遅れていたことは事実である。しかし、日本でも独自の技術開発が進められていたことも事実である。例えば、伊能忠敬の日本地図製作は、欧米も感嘆するほどの精度度であった。ただ、伊能忠敬が、新しい測量技術を開発したのではなく、工夫はしたが基本的には、それまで日本で行われていた技術を持って成した。つまり、欧米に引けを取らない技術を日本は持っていたということだ。その技術の下の地があつたればこそ、開国と同時に、欧米の新進技術をあつという間に取り入れ、自分のものとする事が出来たといえる。さて、伊能忠敬の日本地図製作に当たっては、そうした技術論だけでは片づけられない。つまり、彼の執念にも満ちた努力があつたればこそだ。しかも、本職を退職し、今日でいう定年後の仕事というから恐れ入る。

この伊能忠敬の業績や、伊能図と言われる各種地図は、各位、各方面で研究されている。しかし、まだ研究の余地はありそうである。わが天草の測量に関していえば、伊能忠敬の測量日記や付き廻り役の上田宜珍の巡廻記の翻刻や解読が、各位の努力で成されている。ただ、翻刻や解読文とはいえ、読んでも難易で、読み進めるのに苦労する。そこで、これを基に、できるだけ現代文に改め、かつ両日記を併記することにより、忠敬の測量がより具体的に見えるようにとの思いで、この書を著した。

さらに、若干の関連説明や天草の歴史をも織り込んだ。ただ、力不足で、読者の人に満足を与えることはできないが、天草という辺地まで丁寧に測量した伊能忠敬の業績に対して、尊敬の念を込めて著したつもりだ。

この書には、多くの古文書解読文を掲載した。したがって読みずらくなっているかとも思うが、その部分は飛び越してもらってもいいと思う。もしもう一度読み返してみたいと思われたら、その時にちよつと目を通していただければそれでいいと思う。漢字だけの古文書はとつきにくい、何度か読み返すと、完全ではないがなんとなく意味が分かるようになると思う。

読者諸氏にお願いだが、測量の項に入ったら、手元に天草の地図を用意して、その地図と測量地を見比べながら読んでらうと、より測量の様子が見えてくるのではないかと思う。

# 【凡例】

- 1 底本
  - (1) 『伊能忠敬 測量日記解読 第十六巻』 渡辺一郎監修 伊能忠敬 e 史料館  
略称《測》、《測・坂部支隊》。
  - (2) 「文化七年 天草郡中 御測量方御巡回日記」  
略称として《巡》、《巡・坂部附》  
『天草郡高濱村庄屋 上田宜珍日記 文化七年』 略称《宜珍日記》  
平田正範翻刻 天草町教育委員会 に収録
  - (3) 『天領天草 大庄屋 木山家文書 御用触写帳 第二巻』 本渡市教育委員会  
略称《木山家文書》
- 2 主要参考本  
『天草近代年譜』 松田唯雄著 図書刊行会  
略称として《近代年譜》とした。
- 3 年月日表記について  
基本的に陽暦を用い、○付きで陰暦を記した。(例外あり)また陽暦は算用数字、陰暦は漢字で表した。(例) 陽暦Ⅱ1月1日・陰暦Ⅱ一月一日。
- 4 時刻について  
江戸時代当時の表記を現代使われている時刻に換算した。詳しくは、本文で。
- 5 距離表記について  
尺貫法表記をメートル法に換算した。詳しくは、本文で。
- 6 主たる測量地は現在の市町名で記した。  
また個々の測量地は、基本的に本文の通り記したが、字・枝(郷)は省いた。

## 表紙図説明

伊能大図彩色図・国土地理院

- 番号:196 図名:肥後 天草 肥前島原 (部分)  
 番号:200 図名:薩摩 肥後 人吉 (部分)  
 番号:203 図名:薩摩 長嶋 肥後 天草 (部分)

<http://www.gsi.go.jp/MAP/KOTIZU/sisak/>

